

氏名	SCHWARTZ LAURE LAURE SCHWARTZ
所属 職名	人間文化創成科学研究科文化科学系 准教授
学位 専門分野	博士（文学）
URL	
E-mail	schwartz.laure@ocha.ac.jp

## 研究者キーワード / Keywords

日本美術史  
仏教  
欧米における日本学  
極東美術コレクション  
博物館学

Japanese Art History  
Buddhism  
Western Japanology  
Eastern Asian Art Collection  
Museology

## 主要業績

「日本の建築空間と庭園?明治から20世紀初頭にかけての欧米におけるその受容と普及?」(第12回国際日本学シンポジウム セッションIIセッション趣旨) お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター年報第7号

「日仏交流の中のテキスタイル? 技術 デザイン、コレクション (第11回国際日本学シンポジウム セッションII セッション趣旨) お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター年報第6号

## 研究内容 / Research Pursuits

以下の二つのテーマに基づいて研究を行った。A)ヨーロッパにおける日本美術史学の誕生と発展に関する研究 ガストン・ミジョンとルーヴル美術館における最初の日本美術コレクションの展示に関するこれまでの研究を踏まえ、世界美術史における日本の再評価という観点からジョルジュ・サールの果たした役割についての新たな研究を始めた。サールと、当時の多くのアーティストらとの関係を明らかにしながら、多くがまだ未刊の資料を分析することで、ヨーロッパにおける極東美術研究やその展示に関するサールの考え方、また芸術の位置づけの世界的な向上と博物館学の発展という点から見た彼の鋭い洞察力への理解につながった。B)日本仏教美術及びイコノグラフィー研究 平安時代の仏画の傑作、「応徳涅槃図」(1086年制作)に関する研究の延長として、また泉武夫教授率いる研究プロジェクト(「兜率天往生の思想とのかたち」科学研究 基盤研究 [B])の一環として、日本仏教美術についての欧米における研究史について、比較研究的な観点からの研究を続けた。

As previous years, parallel to my activities within the Center of Japanese Comparative Studies, my researches have been oriented in the two following main directions; A) Researches on the origin and the development of the Japanese art history in West In

## 教育内容 / Educational Pursuits

講義：昨年度は、日本の美術作品や美術書のコレクションを所蔵するヨーロッパの主要な図書館を、歴史的、比較研究的な観点から捉えることを目標とした。ヨーロッパにおける古今の資料や情報網を紹介しながら、テキストや視覚資料の分析を通して、コレクションやその所蔵美術館・図書館の歴史、変遷、内容をたどり、ヨーロッパ文化における日本の位置やイメージを時代の流れと共に見ていった。これらのコレクションやその所蔵施設を、その創設から現在までの発展に至るまで、歴史的背景の中に捉えなおし、またそれらと西洋文化との関連にも目を向けながら、日本と西洋の文化交流の拠り所となってきた思想や功績を残した多くの研究者、思想家、コレクター、日本文化愛好家、アーティストらの軌跡や彼らの役割を振り返った。今回は特にフランス国立図書館、フランス国立極東学院、ギメ美術館を取り上げた。演習：例年通り西洋における最初の日本美術コレクションの歴史をテーマとした演習では、引き続きアーネスト・フェノロサの思想と功績に焦点を当てた。

Course: This year our course has aimed to present, from an historical and comparative perspective, the main french libraries preserving collections of works and publications relative to Japan. Exploring past and current networks and information sources li

## 研究計画

ジョルジュ・サール研究の一環として、フランスあるいは広く欧米における極東美術の受容と解釈の実態を明らかにする資料（展覧会カタログ、新聞記事、刊行案内書など）の調査を中心に、西洋における日本美術への眼差しとその研究史についての研究を続けていく。サールが、まずルーヴル美術館に独立した極東美術部門を設立し、次いで改修したギメ美術館にこれを移管させるに至った理由を分析し、そしてこの極東美術コレクションの移設で、サールはいかにしてエミール・ギメやガストン・ミジョンといった先人らの理想や思想を守りながら、東洋美術をはじめとする世界中の美術の中で、日本美術への新しい理解を促していったかを探っていく。また、日本仏教美術に関する研究では、兜率天の表現と欧米におけるその受容の歴史についての比較研究をさらに掘り下げていくことになる。ジョルジュ・サールが、まずルーヴル美術館に独立した極東美術部門を設立し、次いで改修したギメ美術館にこれを移管させるに至った理由を分析し、そしてこの極東美術コレクションの移設で、サールはいかにしてギメやミジョンといった先人らの理想や思想を守りながら、東洋美術をはじめとする世界中の美術の中で、日本美術への新しい理解を促していったかを探っていく。また、日本仏教美術に関する研究では、兜率天の表現と欧米におけるその受容の歴史についての比較研究をさらに掘り下げていくことになる。共同研究の可能性：＊お茶の水女子大学比較日本学研究センター/INALCO・コレージュ・ド・フランス/フランス国立図書館/ブレーズ・パスカル大学との共同プロジェクトなど(研究プロジェクト名：欧米における日本学？日本美術研究を中心に?)＊お茶の水女子大学/パリ第7大学/フランス国立高等研究院：国際日本学（本学の新たな構築の試み）

## メッセージ

2004年6月にお茶の水女子大学比較日本学研究センター助教授に着任して以来、フランス人研究者としての日本美術史に対する考察を伝え、大学や美術館での研究・勤務経験を生かして、お茶の水女子大学の国際学術交流に貢献できることは大変光栄である。講義や、比較日本学研究センターが主催する国内外での様々な活動（講演会、セミナー、シンポジウム、出版）を通して、海外で力強く発展し続ける日本学に接し、学生が研究テーマを発見し、これを深めていけるように促していきたい。日本美術に関する海外の文献の紹介と解説、海外の主要な日本学研究施設の訪問、講義や比較日本学研究センター主催の国際セミナー等は、我々の目的とするところであり、関心のある学生と共に追究していきたいと願っている。